

			長崎県水産部水産経営課		
目的		製氷施設の広域的な機能再編を行うため、近隣の阿須湾漁協を含め、機能向上を目的とした鮮度保持施設整備を行うことにより、漁業者の利便性向上及び効率的な利用による漁業経費の削減を通して漁業経営の安定化を図る。			
目標		漁業所得の増加		2	
事業実施主体		厳原町漁業協同組合			
実施地区		対馬市厳原地区			
実施期間及び目標年度		実施期間		目標年度	
		令和2年度～令和5年度		令和5年度	
助成金額		84,122千円			
事業計画の内容		施設規模の変更や、自動給氷設備の導入のため、鮮度保持施設（日産30トン、貯氷160トン）に所要の改修を行ったもの。 ・施設本体改修 ・製氷設備改修 ・貯氷設備改修 ・氷搬送設備改修 ・既存設備撤去			
評価	取組の目標（KPI）	地区内における漁労所得の増			
		基準年（A）	（平成30年度時点） ●●●●●●千円		
		現状値（B）	（令和5年度末時点） ●●●●●●千円	増加率 【=(B-A)/A×100】	36%
		目標値（C）	（令和7年度末） ●●●●●●千円	増加率 【=(C-A)/A×100】	13%
	成果目標	一本釣り、シイラ漬け及び定置網漁業における漁業所得の増加率（5.1%）			
		現状値（D）	（令和5年度末時点） ●●●●●●千円 対目標値【=D/E×100】 139%		
		目標値（E）	（令和5年度末） ●●●●●●千円		
	（1）現状値の説明		KPI：漁協組合員の漁業所得の合計値（基準年：171経営体、現状値：154経営体） 成果目標：便益の算定根拠として抽出した一本釣り、シイラ漬け及び定置網漁業者の漁業所得の合計値（基準年：141経営体、現状値：124経営体）		
	（2）地域への経済効果		氷の供給能力の向上により、定置網漁業者は水揚量が多い日であっても1日でも出荷が可能となり、利便性の向上及び所得の向上に繋がった。またカード式設備の導入により、24時間施設利用が可能となり地元漁業者の利便性も大きく向上した。		
	（3）所見		漁業者数の減少、燃油及び餌代の高騰による経費の増加等により一本釣りの漁業総所得は減少し、特にシイラ漬けについては不漁により大幅に所得が減少したものの、水揚量の多い定置網漁の漁獲量の増加に加え、魚価の向上、冷凍設備の利便性の向上により漁業所得が増加したため、成果目標を達成し、KPIも順調に推移している。		
	（4）評価機関への意見等				
	今後の改善方向等に関する分析		燃油や餌代の高騰により経費が増加傾向にあることから、減速航行、船底等の清掃の徹底及び省エネ機器等の導入並びに傷物等で出荷できない魚を飼料に利用するなど経費の削減を図り、漁業所得の向上に努めていく。		